

EBN

に基づく分娩後のシャワー浴および入浴開始時期に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2013-01-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 瀬戸, 知恵, 佐々木, 綾子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/7084

福井大学トランスレーショナルリサーチ推進センター平成23年度公募採択型研究費
「学内共同研究等」

EBNに基づく分娩後のシャワー浴および入浴開始時期に関する研究

研究代表者： 瀬戸 知恵（医学部・助教）

共同研究者： 佐々木 綾子（医学部・准教授）

概 要	本研究では、根拠が曖昧なまま続けられている、分娩後のシャワー浴および入浴の開始時期について、わが国の実態を明らかにし、EBNの視点から望ましい方法を検討することを目的とした。全国の病院の、責任者の立場にある助産師を対象に、郵送法により無記名自記式質問紙調査を実施した。その結果、分析対象は399名であり、シャワー浴開始時期は「産褥1日目」（80.1%）、入浴開始時期は「産褥1ヶ月目」（40.8%）が最も多い割合を占めていた。早期開始群は非開始群に比べて、明確な理由に基づいて実施している傾向があることが示唆された。また、望ましいと考える時期には幅があり、現在実施している時期よりも早期と考えている者も多くいることが分かった。文献検討や今回の結果から、シャワー浴については分娩2時間後以降の時期に、また入浴については産褥1週間以降の時期に、褥婦の状態や希望に応じて実施していくことが望ましいと考えられる。
関連キーワード	EBN、分娩後、シャワー浴、入浴、開始時期、ケアの見直し

研究の背景および目的

これまで、分娩ケアについては、EBN（Evidence-Based Nursing）の視点から様々な見直しが行われてきている。例えば、分娩前の浣腸や剃毛は、既に不要であることが実証され周知されており、またフリースタイル出産も、根拠に基づいたケアとして多くの施設で取り入れられるようになってきている。しかし、根拠が曖昧なまま続けられていると考えられるケアは依然としてまだ多数あり、今回我々は、その中でも早期の改善が望まれる、分娩後のシャワー浴および入浴の開始時期に着目することとした。

分娩後のシャワー浴および入浴については、わが国では現在、シャワー浴は産褥1日目から、入浴（浴槽につかる）は産褥1ヶ月から開始とする方法が一般的であり、看護学や助産学テキストにも概ねそのように記載されている。しかし、先行

文献や解剖生理、現代人の清潔習慣、海外の状況、また独特の入浴文化を有するわが国の特徴などを鑑みると、シャワー浴は分娩2時間後、入浴は産褥1週間後という早期から可能であると考えられ、早期の改善が求められる。

わが国の現状は、根拠が曖昧なまま、感染予防という名目や長年の慣習に基づいて、遅い時期となっていることが予想されるが、その正確な実態は明らかではない。本研究ではそれらを明らかにし、EBNの視点から、望ましい方法を検討することを目的とした。

本研究は、EBNに基づいた質の高い看護ケアの提供に寄与すると共に、褥婦のQOLの向上にも大きく貢献することが期待できる。また、臨床現場だけでなく、助産・母性看護教育現場の改革にも寄与するものとする。

研究の内容および成果

【研究方法】

1. **調査方法**：全国の分娩介助業務を行っている病院の、助産業務の実態を最も把握していると考えられる責任者の立場にある助産師で、調査協力を得られた者を対象に、郵送法により、独自に作成した無記名自記式質問紙調査を実施した。

2. **調査内容**：1) 対象者・施設の背景（職位、施設の種類、年間分娩件数、帝王切開率、会陰切開率、シャワー浴・入浴設備の状況等）2) 分娩後のシャワー浴・入浴に関する実態（開始時期、その理由、褥婦の声、分娩後のシャワー浴・入浴に関する考え等）

3. **分析方法**：各項目の単純集計後、早期開始群と非開始群の比較を行った。統計学的分析にはSPSS18.0J for Windowsを用い、有意水準は5%

未満とした。

なお、本研究は福井大学医学部倫理審査委員会の承認を受けて実施した（第475号）。

【研究結果】

調査用紙配布数930の内、回収数は399であり、その内有効回答の得られた397を分析対象とした。回収率は42.9%、有効回答率は99.5%であった。

1. 対象者の背景

対象者の職位は、看護師長199名（50.4%）、助産師（スタッフ）68名（17.2%）、主任61名（15.4%）であった。施設の種類は、総合病院（MFICU・NICUなし）181施設（45.6%）、総合病院（NICUのみあり）114施設（28.7%）、総合病院（MFICU・NICUあり）42施設（10.6%）の順であった。

年間分娩件数の平均値は530±367件、帝王切開

率は 24.9±13.7%、会陰切開率は初産婦 67.2±32.1%、経産婦 40.0±28.6%であった。

病棟内のシャワー浴・入浴設備は（複数回答）、「共用のシャワー設備」があると答えたのは 324 名（81.6%）、「個室のシャワー設備」197 名（49.6%）、「共用の入浴設備」175 名（44.1%）等であった。

正常分娩後の抗生物質処方、ルーチンで実施している」は 251 名（63.2%）であった。

2. 分娩後のシャワー浴・入浴開始時期の実態

シャワー浴開始時期は、「産褥 1 日目」と答えたのは 318 名（80.1%）と最も多く、「分娩 2 時間後」は 7 名（1.8%）であった。「その他」（自由記載）としては、「6 時間後」6 名、「12 時間後」3 名等であった。再分類した結果（図 1）、「1 日未満」であったのは 24 名（6.0%）、「1 日以降」であったのは 355 名（89.4%）であった。開始時期の理由（複数回答）は、「医師の指示」131 名（33.0%）、「特に理由はない」96 名（24.2%）、「その他」149 名（37.5%）等であった。

望ましいと思うシャワー浴開始時期（図 2）は、「産褥 1 日目」と答えたのは 301 名（76.0%）、「その他」62 名（15.7%）、「分娩 2 時間後」24 名（6.1%）の順であり、「その他」（自由記載）としては「当日（6 時間後、12 時間後等）」27 名、「褥婦の希望、状態に応じて」27 名等の回答があった。その理由（自由記載）としては、「1 日目」と答えた者は、「褥婦の全身状態を考慮して」204 名、「2 時間後」と答えた者は、「保清やリフレッシュのため」10 名、「気分不良がなければ」12 名等であった。

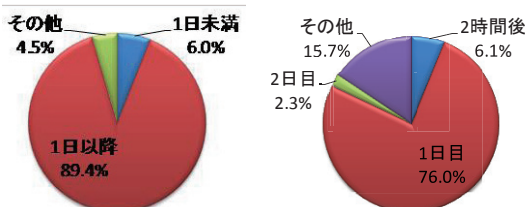


図1 シャワー浴開始時期

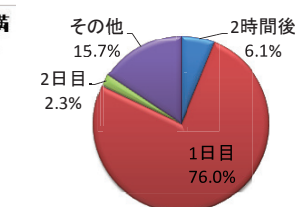


図2 望ましいと思うシャワー浴開始時期

入浴開始時期（図 3）は、「産褥 1 ヶ月目」と答えたのは 341 名（85.9%）と最も多く、次いで「その他」29 名（7.3%）、「2 週間目」13 名（3.3%）の順であった。「その他」（自由記載）としては、「悪露が（ほぼ）消失してから」17 名、「3 週間目（頃）」4 名等であった。開始時期の理由（複数回答）は、「医師の指示」243 名（61.2%）、「昔からの慣習だから」122 名（30.7%）、「その他」78 名（19.6%）等であった。

望ましいと思う入浴開始時期（図 4）は、「産褥 1 ヶ月目」162 名（40.8%）、「その他」91 名（22.9%）、「2 週間目」86 名（21.7%）の順であった。「その

他」（自由記載）としては、「血性悪露が消失してから、出血が少なくなってから」29 名、「悪露が消失してから」14 名等であった。その理由（自由記載）としては、「1 ヶ月目」と答えた者は、「感染予防、子宮復古を考慮して」96 名、「現代はシャワーやビデで対応できるため必要がない」11 名等であり、「2 週間目」と答えた者は、「退院後自宅ですら良いと思うから」13 名等であった。

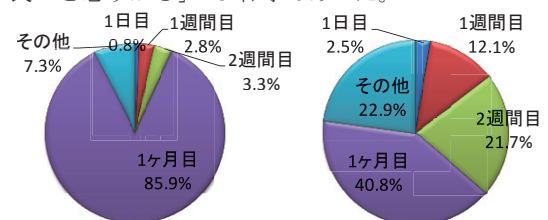


図3 入浴開始時期

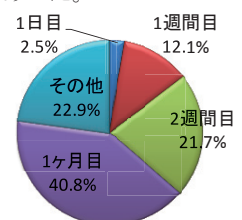


図4 望ましいと思う入浴開始時期

シャワー浴、入浴の開始時期に関して、褥婦からの要望が「ある」と答えたのは 109 名（27.5%）、「ない」と答えたのは 284 名（71.5%）であり、その内容としては、「もっと早く入りたい」が 84 名（21.2%）、「もっと遅く入りたい」が 45 名（11.3%）等であった。

その他、自由記載欄の中で、「なるべく早く入浴できれば快適」、「循環が良くなり母乳分泌促進にもなる」等、より早期の入浴開始時期について積極的な意見を述べていた者が、計 197 名いた。

3. 早期開始群と非開始群の比較

シャワー浴早期開始群（1 日未満）と非開始群（1 日以降）に分類し、開始時期の理由について比較を行ったところ、「その他」と答えた者は早期開始群で有意に多かった（ $p < 0.01$ ）。また入浴早期開始群（3 週間以内）と非開始群（1 ヶ月）に分類し、開始時期の理由について比較を行ったところ、「昔からの慣習だから」と答えた者は非開始群で有意に多かった（ $p < 0.05$ ）。

【考察】

分娩後のシャワー浴は産褥 1 日目、入浴は産褥 1 ヶ月目から実施している施設が多かった。早期開始群は非開始群に比べて、明確な理由に基づいて実施している傾向があることが示唆された。また、望ましいと考える時期には幅があり、現在実施している時期より早期と考えている者も多くいることが分かった。文献検討や今回の結果から、シャワー浴については、分娩 2 時間後以降の時期に、また入浴については、産褥 1 週間以降の時期に、褥婦の状態や希望に応じて実施していくことが望ましいと考えられる。今後は、褥婦を対象とした実態調査や、望ましい時期についての臨床現場および教育現場に対する啓発活動が必要と考える。

本助成による主な発表論文等、特記事項および競争的資金・研究助成への申請・獲得状況

研究の成果は、第 14 回日本母性看護学会（2012 年 6 月開催予定）、ICOWHI 19th International

Congress on “Women’s Health 2012”（2012 年 11 月開催予定）で発表予定である。